

OBR選手各位

第142回大会 Bリーグ

第2回戦

標題について下記の通り、お知らせします。

記

去る、平成25年9月23日(月)対東陽パッションズとの試合は次の通りです。

	1	2	3	4	5	計
パッションズ	0	1	1	0	3	5
OBR	1	1	0	0	0	2

打	守		打席	打数	得点	安打	打点	二塁打	三塁打	本塁打	三振	四死球	犠打	盗塁	失策
1	8	西	3	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0
2	9	レイノルド	3	1	1	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0
3	7	川本	3	2	0	1	2	0	0	0	1	1	0	1	1
4	3	加賀	3	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
5	5	山地	3	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1
6	2	水本廣	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	1	水本貴	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
8	6	中畑	2	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0
9	4→控	岩本	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	控→4	浦川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	控	島村													
	控	深港													
	控	藤倉													
		計	24	19	2	2	2	0	1	0	7	5	0	9	6

投手	回数	安打	三振	四死球	暴投	自責点	失点
水本貴	5	5	3	2	1	2	5

ミスの重さ・・・。

1回戦を不戦勝という形で幕を開けた142回大会。2回戦はベストメンバーがほぼ揃った上で、即戦力となる新メンバーの山地選手、川本選手も加わり、一段と層が厚くなったOBR。

2回戦の先発は、安定感抜群の水本貴選手。初回は、テンポ良く相手を3人で打ち取り、完璧な立ち上がりを見せる。その裏のOBRの攻撃は、足を絡めた攻撃からチャンスを作り、迎えるは新戦力の3番レフト川本選手。監督の期待にきちんと答え、しぶとくライトヘタイムリーヒットを放ち、先制点を奪う。

2回の表に、すぐさま同点に追いつかれ、なおもノーアウト満塁の大ピンチ。9番バッターの打球はライトへ高く上がる・・・。その瞬間、誰もが1点は仕方ない状況だと思ったに違いない。しかし、ライトを守るレイノルド選手がフライをキャッチしたと同時に、矢のような好返球をキャッチャーのミットへと投げ込み、3塁ランナーをタッチアウト。そして、飛び出していた他のランナーをもタッチアウトとし、まさかまさかのトリプルプレー。大ピンチを超ファインプレーで切り抜け、流れはOBRに傾きかけていた・・・。

その後は、1点ずつを取り合う両者とも譲らない好ゲームを見せ、2-2の接戦で迎えた5回の表。時間の関係上、この回が最終回となり、セカンドを岩本選手から浦川選手へと交代して、東陽パッションズの攻撃。波乱はこの回に待っていた。

先頭バッターを守備のミスから出塁させてしまう。重い空気が流れたまま、1アウトランナー2塁、迎えた3番バッターに2ストライクからレフトへと運ばれ、連携が乱れている間にランナーがホームへと還り、勝ち越しを許してしまう。そこから、たて続けにミスが出てしまい、一挙に3点を奪われてしまう。その3点が結果として決勝点となり、OBR万事休す・・・。

今回142回大会は、ミスの重さを改めて感じ、悔しさの残る試合となった。得点を与えてしまった場面には、全てミスが絡んでおり、1点につながるきっかけとなっている。1つのミスが敗北につながることを痛感させられた。

この悔しさを忘れず、次回の143回大会では全試合で完璧な野球をしてもらい、思う存分暴れてくれるOBRに期待したい・・・。